日本放射線技術学会第 46 回秋季学術大会　参加報告

小樽掖済会病院　平野　雄士

10 月 4 日（木）～10 月 6 日（土）に仙台市において日本放射線技術学会第 46 回秋季学術大会が開催されました。

天候は晴れていて、気温も北海道程寒くもなく、行楽日和といったところです。会場となった仙台国際センターは地下鉄東西線の国際センター駅からすぐの場所にあり、アクセスが非常にいい会場です。展示棟と会議棟からなる建物で 6000 名規模まで入るらしく、設備も新しい素晴らしい施設でした（fig.1）。

今回はＣＴセッションの座長での出席でした。秋季大会はＪＲＣと違い、英語縛りもなく、堅苦しくないので、演者も会場の質問者も気楽に応答ができます。いままで秋季大会にはあまり参加してこなかったのですが、こちらのほうが議論しやすくていい雰囲気です（fig.2）。

特別な企画としては「おばんですセミナー」という大会長企画がありました。会場入り口に缶ビールが置いてあって、ビールを飲みながら聴講できるというスペシャルな企画です。　東北大学の森一生先生が「Ｘ線ＣＴの温故知新」というタイトルで、「ＴＣＴ-900Ｓ」の開発秘話を講演してくださいました。開発費何十億もかけて頓挫しそうになっても、それでも構わず進めていった話や、スペック重視でとにかく最高のものを作ろうとしていて、当初、ヘリカルにはあまり重きを置いていなかった話など、懐かしくもあり、驚きもあり。ヘリカルＣＴ世代の年寄り（微妙な年齢ではあるが）には、最高のビールのおかずでした。

また、アミンのハンズオンセミナーに飛び入りで参加して、、札幌医大の原田耕平先生に肝臓の術前画像の作成、札幌南三条病院の平野真理先生の肺がんの術前画像の作成の教えを受けたりしました（札幌でもいいようなメンツだが）。大腸解析以外のＷＳは久しぶりだったので、新鮮でした（fig.3）。世の中はＡＩで何でもできるような幻想を抱いているけれども、まだまだ、勉強しないとうまくなれません。

展示のスペースには業者さんの展示のほかに東日本大震災の時に現れた断層が展示してあり、地震を体験するコーナーもありました。北海

道でも大変だった後なので他人事じゃありません。仙台については綺麗に復興してきている様子です。自然の力も、文明の力も恐ろしいですね。

夜は定番の利休の牛タンを食べて（これも札幌でいいかも？）、のんびり気分で帰ってきました。なんだろう、こののんびり気分。学会を楽しむには、秋季大会もいいかもしれません。

fig.1
仙台国際センターと
小樽協会病院の渡辺直輝
技師長

fig.2
設備の整った一般
演題会場風景

fig.3
コワモテ講師の
ハンズオンセミナー